

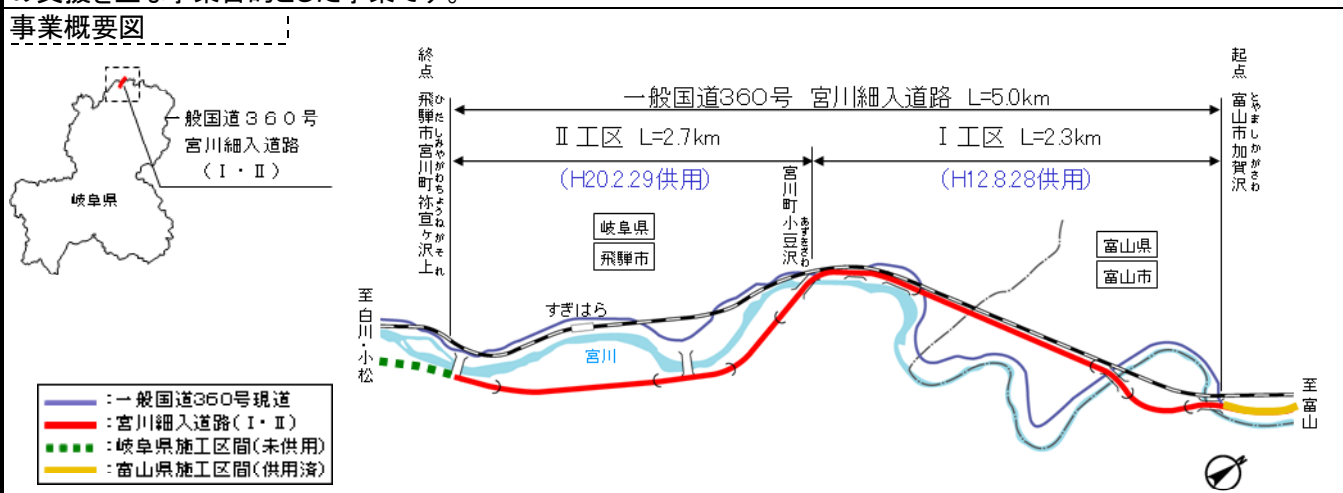
事後評価結果（平成24年度）

担当課：中部地方整備局 道路部 道路計画課
担当課長名：田中 創

事業名 一般国道360号宮川細入道路（Ⅰ・Ⅱ） <small>みやがわほそいり</small>	事業区分 一般国道	事業主体 国土交通省 中部地方整備局
起終点 自：富山県富山市加賀沢 <small>とやま とやま かがさわ</small> 至：岐阜県飛騨市宮川町柵宜ヶ沢上 <small>ぎふ ひだ みやがわ ねがそれ</small>	延長 5.0 km	

事業概要
 一般国道360号は、富山県富山市を起点とし、岐阜県飛騨市、白川村を経て石川県小松市に至る延長約140kmの主要幹線道路です。
 一般国道360号宮川細入道路（Ⅰ・Ⅱ）は、富山県富山市加賀沢から岐阜県飛騨市宮川町柵宜ヶ沢上に至る延長5.0kmのバイパスです。

事業の目的・必要性
 一般国道360号宮川細入道路（Ⅰ・Ⅱ）は、冬期通行不能区間の解消や救急医療活動の支援及び住民生活の支援を主な事業目的とした事業です。



事業の効果等	事業期間	事業化年度	平成元年度	用地着手	平成2年度	供用年	(当初) / H19	変動	
		都市計画決定	—	工事着手	平成3年度	(暫定/完成)	(実績) / H20	1.1倍	
	事業費	計画時	(名目値) — / 200億円	実績	(名目値) — / 197億円			変動	0.99倍
		(暫定/完成)	(実績値) — / 197億円	(暫定/完成)	(実績値) — / 196億円				
	交通量	計画時	— / 2,900台/日	実績	— / 899台/日			変動	31%
		(暫定/完成)	(暫定/完成)	(暫定/完成)	(暫定/完成)				
	旅行速度向上	17.5km/h	→	55.5km/h	交通事故減少	0.25件/年	→	0.0件/年	
		(供用前現道→当該路線)		(供用後年次) H22 年度		(供用前現道→供用後現道)		(供用後年次) H20-22年度(年平均)	
	費用対効果分析結果	B/C	1.2	総費用	223億円	総便益	259億円	基準年	平成15年
	(再評価)			(事業費: 217億円)		(走行時間短縮便益: 228億円)			
				(維持管理費: 6.0億円)		(走行経費減少便益: 31億円)			
						(交通事故減少便益: 0.2億円)			
	費用対効果分析結果	B/C	1.1	総費用	306億円	総便益	321億円	基準年	平成24年
	(事後)			(事業費: 273億円)		(走行時間短縮便益: 238億円)			
				(維持管理費: 33億円)		(走行経費減少便益: 71億円)			
						(交通事故減少便益: 11億円)			
	事業遅延によるコスト増	費用増加額		便益減少額					
		— 億円		— 億円					

事業遅延の理由
 特になし

客観的評価指標に対応する事後評価項目

- ①円滑なモビリティの確保
- ・ 現道等の年間渋滞損失時間の削減。
 (渋滞損失削減時間1.8万人・時間/年 1.8万人・時間/年 → 0万人・時間/年)

	<ul style="list-style-type: none"> ・当該路線の整備によるバス路線（飛騨市巡回バス）の利便性が向上。 ・第三種空港（富山空港）へのアクセス向上。 <p>②物流効率化の支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際拠点港湾（旧特定重要港湾）（伏木富山港）へのアクセス向上。 <p>③国土・地域ネットワークの構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現道等における冬期通行不能区間が解消。 ・現道等における大型車のすれ違い困難区間が解消。 <p>④個性ある地域の形成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主要な観光地（飛騨市宮川町）へのアクセス向上。 <p>⑤安全で安心できるくらしの確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第二次医療施設（富山市民病院）へのアクセス性が向上。 <p>⑥災害への備え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近隣市へのルートが1つしかなく、災害による道路寸断で孤立する集落が解消。 ・第三次緊急輸送道路として位置づけられている。 ・現道等の防災点検要対策箇所における通行規制等が解消。 ・現道等の冬期交通障害区間が解消。 <p>⑦地球環境の保全</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象道路の整備により自動車からのCO2排出量が削減。 （CO2排出削減量：4.7t/年 29.8t/年 → 25.1t/年） <p>⑧生活環境の改善・保全</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現道等における自動車からのNO2排出削減率。（NO2排出削減率：100%削減） ・現道等における自動車からのSPM排出削減率。（SPM排出削減率：100%削減） <p>その他評価すべきと判断した項目</p> <p>特になし。</p>
事業	環境影響評価に対応する項目
変	特になし。
化	その他評価すべきと判断した項目
	特になし。
事業評価監視委員会の意見	
・今後の事業評価及び改善措置、調査・計画のあり方、事業評価手法について見直しの必要なし。	
事業を巡る社会経済情勢等の変化	
<ul style="list-style-type: none"> ・飛騨市の人口は減少傾向にあり、旧宮川村の減少率は最大。 ・飛騨市の高齢化率は約33%になっており、岐阜県平均に比べ1割程度高い。 ・岐阜県全体、高山市、下呂市の一世帯当たりの自動車保有台数は減少傾向ですが、飛騨市はほぼ横ばい。 ・一年を通して、富山市内の医療施設への救急搬送に宮川細入道路（Ⅰ・Ⅱ）が活用。 	
今後の事後評価の必要性及び改善措置の必要性	
<ul style="list-style-type: none"> ・岐阜県と富山県を結ぶ国道360号の冬期通行不能区間が解消し、年間を通じて安全で円滑な交通が可能になりました。 ・宮川細入道路（Ⅰ・Ⅱ）は、災害に強い道路機能を確保しているため第三次緊急輸送路に指定されており、災害時には復旧・復興を支援します。 ・宮川細入道路（Ⅰ・Ⅱ）開通により、これまで通行不能だった冬期でも宮川町杉原地区より富山市民病院（第二次医療施設）への救急搬送ルートが一年を通して通行可能となり、地域の救急医療に貢献しています。 ・冬期閉鎖が解消し、八尾総合病院（富山市）の送迎バスサービスが開始されました。 ・冬期通行不能（12月～4月の約5ヶ月間）の解消により、旧宮川村の生活の主要都市であった富山への通年通行が可能となり、下宿の解消、車での通年通勤等、住民生活を支援しています。 ・宮川細入道路（Ⅰ・Ⅱ）開通により、旧宮川村～富山市間の所要時間が短縮され、住民生活の利便性が向上しています。 <p>以上のことから、宮川細入道路（Ⅰ・Ⅱ）は、当初の整備目的に対し事業効果を発揮していることから、今後の事業評価の必要性および改善措置の必要性はない。</p>	
計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性	
本事業の効果は十分に発揮しており、同種事業の計画・調査のあり方の見直しの必要性はない。	
特記事項	
特になし。	

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。